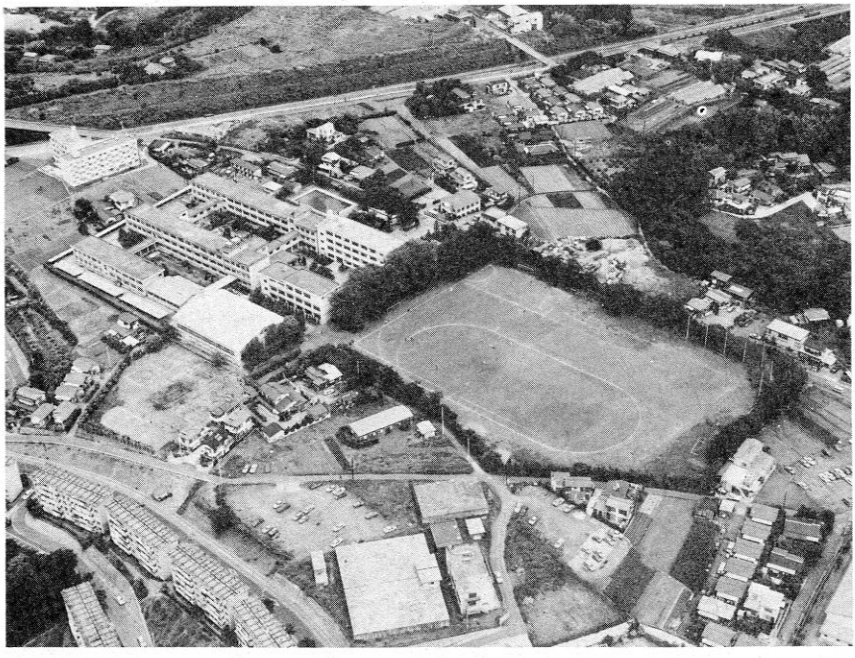
# 広陵



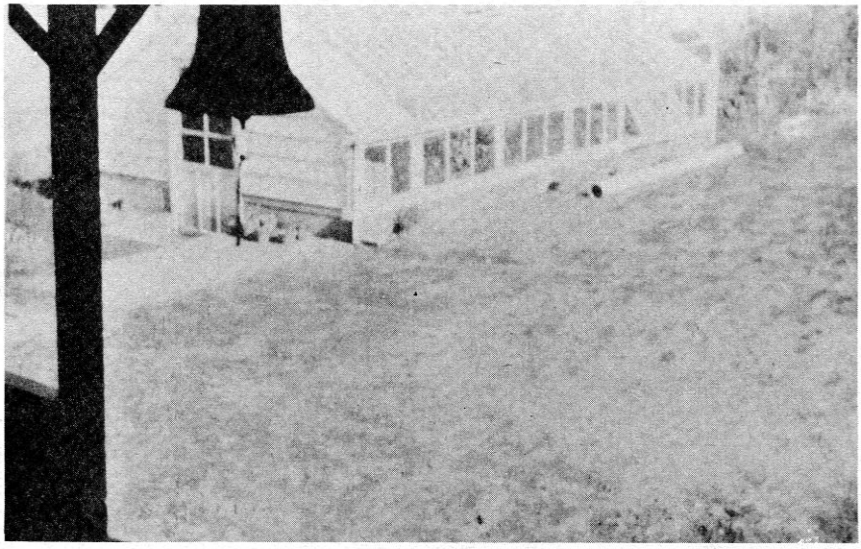
## 第15号

61．9．10

61年度 総 会　10月26日(日)

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

《思い出のシリーズ》　（その15）



渡り廊下の鐘と温室（昭和33年頃）

# 同窓会々報第15号目次


表紙題字　宮本　信義（中5）
表紙写真（全紙面）「梶山写真スタジオ」梶山　敏之（高17）
総会のご案内・六十一年度事業計画……1
予算案・決算の報告……2
六十周年を迎えて……同窓会長・能條斐雄……3
創立六十周年―草創百年祭―を迎えて…学校長二見修次　4
母校を去るに当り……石原正三（中15）……4
創立六十周年記念事業実行委員会報告……5・6・7
歴代同窓会長座談会……8
思い出を語る……9・10
思い出の一こま……10・11・12
進学カルテ（進学状況）……13・14
会費納入・編集後記等……14

# “秦 高” でお会いしましょう!!

## 秦中高14,000有余の同窓諸諸君

総会日時　10月26日(日)　PM１：00から

総会々場　「秦高視聴覚教室」
秦野市下大槻113 ☎ 0463 (77) 1422

会　費　２，０００円

※60周年記念校内マラソン大会のため車は、
12：40までは校内に入れません。

## 総会のご通知

会長　能條斐雄

六十周年記念総会が十月二十六日秦高で開催されます。〝還暦〟を迎え多数の卒業生の力でお祝いするため幹事がいろいろ工夫した結果別記のようにきまりました。秦野支部の諸兄が設営してくれました。どうか会員諸兄の多数のご参加をお願いします。

## 総会の御案内

昭和61年度 秦野中・高同窓会

### 60周年記念総会日程

PM　1：00　受　付
PM　1：30　総　会
60年度事業報告及び決算報告
61年度事業計画及び予算審議案
60周年醸金結果報告
記念事業報告
その他
PM　2：30　記念講演、公演
PM　4：00　祝賀会

### 昭和61年度事業計画

一、幹事会、総会の開催
二、会報第15号の発行
三、支部育成強化
四、60周年記念事業醸金の集金、各委員会報告並びに事業の推進
五、在校生活動支援
六、記念造園の整備
七、記念造園ベンチの修理
八、慶弔
以　上

◎60周年記念事業、各委員会活動状況

●教材園委員会　●育英碑委員会
●資料収集委員会　●名簿発行委員会
●式典委員会　●会計委員会

### 昭和60年度事業報告

5月～3月　激励費支給　72名　27万5千円
県大会ベスト8→（サッカー16名、弓道、13名
58人×3千円　庭球8名、陸上20名、社会1名）
関東大会→陸上13名　13人×7千円
全国大会→陸上1名　1人×1万円
尚、10月27日(日)の校内1万米競走と、2月15日(土)の部対抗駅伝に賞品をおくる。

5月11日(土)　会計監査、幹事会（予決算・総会・会報など）出席29名
5月20日(月)　会報委員会　出席11名
6月22日(土)　造林調査会　出席5名
7月8日(月)　大秦野高校同窓会との懇談会　出席9名
7月20日(土)　会報第14号発行
8月25日(日)　総会　出席65名、平塚地区
10月5日(土)　第3回実行委員会　出席41名
醸金活動と状況、事業推進、予算分配予定
11月27日(水)　造園整備
12月14日(土)　役員会　出席12名
2月15日(土)　第4回実行委員会　出席41名
醸金状況、事業推進各委員会報告
〃　吹奏楽部へ助成金をおくる
母校の卒業式、新会員四六七名を迎える。
3月1日(土)　右記の他、年間を通じ、名簿販売、慶弔などを行う。

# 昭和60年度 決算報告

## ◎ 歳 入 の 部

| 項　目 | 60年度予算額 | 60年度決算額 | 増減(減=△) |
|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | 1,127,289 | 1,127,289 | 0 |
| 卒業生入会金 | 890,000 | 890,000 | 0 |
| 会　費 | 1,400,000 | 1,048,500 | △351,500 |
| 雑　収　入 | 80,000 | 22,197 | △ 57,803 |
| 60周年記念事業立替金 | 1,040,000 | 2,043,498 | 1,003,498 |
| 合　計 | 4,537,289 | 5,131,484 | 599,195 |

## ◎ 歳 出 の 部

| 項　目 | 60年度予算額 | 60年度決算額 | 比較(超=△) |
|---|---|---|---|
| 会　議　費 | 410,000 | 385,655 | 24,345 |
| 総　会　費 | 250,000 | 250,000 | 0 |
| 幹 事 会 費 | 100,000 | 73,350 | 26,650 |
| 委 員 会 費 | 60,000 | 62,305 | △ 2,305 |
| 事　業　費 | 3,402,000 | 2,655,725 | 746,275 |
| 支部育成費 | 400,000 | 203,300 | 196,700 |
| 在校生活動振興費 | 650,000 | 379,550 | 270,450 |
| プラバン助成費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 造林調査費 | 50,000 | 30,870 | 19,130 |
| 森林組合賦課金 | 2,000 | 0 | 2,000 |
| 造園維持費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 慶　弔　費 | 150,000 | 217,000 | △ 67,000 |
| 会報発行費 | 1,350,000 | 1,205,580 | 144,420 |
| 60周年記念準備費 | 600,000 | 419,425 | 180,575 |
| 事　務　費 | 230,000 | 249,710 | △ 19,710 |
| 事 務 局 費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 通　信　費 | 20,000 | 44,730 | △ 24,730 |
| 印　刷　費 | 10,000 | 4,980 | 5,020 |
| 予　備　費 | 495,289 | 458,221 | 37,068 |
| 合　計 | 4,537,289 | 3,749,311 | 787,978 |

# 昭和61年度 予 算 案

## ◎ 歳 入 の 部

| 項　目 | 61年度予算額 | 60年度予算額 | 増減(減=△) |
|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | 1,382,173 | 1,127,289 | 254,884 |
| 卒業生入会金 | 920,000 | 890,000 | 30,000 |
| 会　費 | 1,800,000 | 1,400,000 | 400,000 |
| 雑　収　入 | 50,000 | 80,000 | △ 30,000 |
| 60周年記念事業立替金 | 120,000 | 1,040,000 | △920,000 |
| 合　計 | 4,272,173 | 4,537,289 | △265,116 |

## ◎ 歳 出 の 部

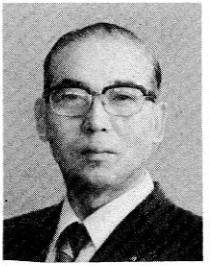
| 項　目 | 61年度予算額 | 60年度予算額 | 増減(減=△) |
|---|---|---|---|
| 会　議　費 | 360,000 | 410,000 | △ 50,000 |
| 総　会　費 | 200,000 | 250,000 | △ 50,000 |
| 幹 事 会 費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 委 員 会 費 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 事　業　費 | 3,264,000 | 3,402,000 | △142,000 |
| 支部育成費 | 360,000 | 400,000 | △ 40,000 |
| 在校生活動振興費 | 650,000 | 650,000 | 0 |
| プラバン助成費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 造林調査費 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 森林組合賦課金 | 4,000 | 2,000 | 2,000 |
| 造園維持費 | 250,000 | 100,000 | 150,000 |
| 慶　弔　費 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| 会報発行費 | 1,300,000 | 1,350,000 | △ 50,000 |
| 60周年記念準備費 | 400,000 | 600,000 | △200,000 |
| 事　務　費 | 230,000 | 230,000 | 0 |
| 事 務 局 費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 通　信　費 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| 印　刷　費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 予　備　費 | 418,173 | 495,289 | △ 77,116 |
| 合　計 | 4,272,173 | 4,537,289 | |

（注）　60周年記念事業立替金のうち、後納郵便立替として、日本名簿出版より1,114,018を、振替分より 929,480 を立替金収入としている。

（60年度歳入総額）　（60年度歳出総額）
5,131,484 － 3,749,311 ＝1,382,173 は次年度へ繰り越し。

# 六十周年を迎えて

同窓会長　能條　斐雄



母校の創立六十周年を心からお祝い申し上げます。

同窓の皆様には益々お元気でご活躍のこととお喜びいたします。

さて、母校やPTAの六十周年記念事業に呼応して、人生の還暦にも相当するこの六十周年を祝福して、同窓会でも記念事業を実施するため、一昨年以来、事業計画を策定して、その準備に入りました処、会員の諸兄には目標額二千万円（一会員一口、二千円以上）達成のため、或いは支部や職域の組織を挙げて積極的に募金活動を展開して頂き、或いは各自、自発的にご送金下さる等、夫々、母校愛の発露として涙ぐましいご協力を賜わり、お蔭様で七月末現在、約三百万円の不足額で、概ね目標達成の見込みとなりましたことを衷心より感謝いたします。

一方、記念事業実施の面では、実行委員三百三十余名の内、約百名の方に、八部会の事業委員会を編成して頂き鋭意、計画を推進して頂きました。

委員の方々のご尽力と各位のご支援で、先ず立派な同窓会名簿が完成し、ご要望の各位には既に発送されました。尚、名簿では沢山の方々に調査や広告掲載等のご協力を頂き誠に有難うございました。

次に、教材園（六十周年記念庭園）は、（工費約六五〇万円）既に第二中庭に着工、その一環として、母校の前身「中郡共立学校」に明治三十一年頃、勉学された「前田夕暮」の歌碑（約百万円）も建立されます。

ご案内のように組合立奈珂中学校は大正十五年（一九二六）に現在地に開校され、創立六十周年になる訳ですが、その前身の育英学校（私立後に組合立となる）更に前身の「三郡共立学校」は明治十九年（一八八六）に、金目の宗信寺に開校されています。将に草創百年になりますので、その百年祭をも併せて記念し、開校の碑（約三五〇万円）を校門前に建立中であります。

更に、育英学校（明治四十二年開校）は金目の法伝寺にあったので、その跡地に、育英の碑（約五十万円）を建設中であります。

その他、同窓資料の収集等も進捗しております。

記念式典の諸計画も既に策定され、当日に備えております。

本年は前例により、年度の総会と六十周年の記念式典を、標記ご案内のように、来る十月二十六日（日）の午後、母校で開催させて頂きますので、当日は多数ご出席願い、各位ご協力の上記の数々をご高賞賜りたく存じます。

惟えば創立六十年、草創百年、更に古きを尋ぬれば百十余年前（明治五年）より今に至るまで、建学の精神は脈々と受け継がれ、歴代の先生方のご熱心なご教導の下、内には従順方円の徳を磨き、外には質実剛健の風を格し、智勇兼備、只管、勉学と人格の陶冶に励んで参ったのでありました。

されば幸いにも、母校は、現在、県央屈指の有名校として益々隆盛、同窓各位は、約一万五千名に近く、既に他界された方もおありですが、今や、各界各方面に、夫々、ご活躍中でありますことは、誠にご同慶に耐えません。明治開化の始め、未だ県下に公立の高等普通教育の機関が皆無であった頃、郷土の先覚が、教育は国家百年の基であることに着眼、ご苦労を重ねて本校の礎を開かれたことに敬服すると共に、その開花結実を喜ぶものであります。

記念事業の推進に当り、終始ご熱心にご指導頂いた二見校長、二宮教頭、ご退任された石原正三先生と校内幹事の諸先生に心から謝意を表します。終りに同窓各位のご多幸と母校の限りないご発展を祈念してご挨拶といたします。


## 秦野高等学校史

十月二十五日発売　A5版 二六〇頁

頒価　一、五〇〇円（予定）


相武の地をかけめぐった 嵐のような自由民権運動が一まず静まった後、明治十九年三郡共立学校が金目村に開校しました。

百年の歴史をふりかえり、先人のたどった跡を見つめることによって、秦高の将来にとっての一つの指針ともなれば幸です。

# 創立60周年—草創100年祭—を迎えて

学校長　二見　修次

同窓生の皆様、益々御健勝のことと推察致します。母校は、いよいよ本年「創立六十周年」を迎えることになりました。大正十五年現在の広畑が丘に奈珂中学校として根をおろして以来、早や六十年の星霜を経たわけです。

ところが皆様ご承知の通り本校の歴史はさらに古く明治十九年（一八八六）三郡共立学校から大正時代の育英学校に至るまでの輝しい四十年の前史があります。

そこで此のたびは、「創立六十周年—草創百年祭—」と題して同窓会を中心にいろいろな記念事業を計画し推めていただきました。

学校行事としての記念式典は十月二十五日（土）に挙行し、翌日二十六日（日）に記念同窓会総会が母校で開催される予定です。

当日、母校へお出掛け下さいますと、まず、正門に入って右手にある日本庭園の池を背景にして、明治—大正—昭和に及ぶ秦野高校百年の歴史を刻む「開校之碑」が建てられています。

また、正門の左手には本校先輩、前田夕暮の、

「まなかひに朝の富士あり天雲を貫きて赤くそびえたるかも」

という歌碑が皆様をお迎えします。

さらに校内に歩をすすめ、本館から理科棟・格技場の前に来ますと、今までの教材園が装を新たにし「創立六十周年記念庭園」としてお目見えしました。枯山水風の落ちついた日本式庭園でゆっくりと腰をおろして久しぶりに同窓との語らいに興じて下さい。

また、体育館の先もと弓道場跡には「新クラブ室」が建設中です。明年三月完成の予定です。

さらに学校から帰途、金目川のほとりを散策して下さい。金目観音の近く「法伝寺」の門前に「神奈川県立秦野高等学校・県立塚越農業高等学校揺籃之地」なる記念碑が建ちました。三郡共立学校から育英学校に至る本校の前史の沿革が刻まれています。

また、記念誌として「秦野高等学校史」を出版し、明治—大正—昭和に及ぶ百年の母校の波瀾に富んだ輝しい歴史を描出しました。

このような多彩な記念事業を背景としながら、学校としましてもこの「六十周年記念」を期して、秦高教育の一層の飛躍の契機と致したいと考えております。

今後とも同窓会の皆様の御理解御協力をよろしくお願い致します。

# 母校を去るに当り

石原正三（中15）

貴重な紙面を拝借して、同窓生の皆様にご挨拶のできますことを大変光栄に存じます。

この度、長い間奉職いたしました母校秦野高校を、今年三月末をもって退職いたしました。同窓各位には、終始ご懇切なるご指導を賜わり、誠に有りがとうございました。顧みますと、昭和三十一年四月、七年余の闘病生活を後にして母校に奉職、去る三月まで丁度三十年、思えば長い教壇生活でした。同窓会では、校内幹事ということで、先輩の方々の後についていつか知らず三十年も経ってしまいました。ここに退任に際し、心に残った二、三のことを記したいと思います。昭和四十年を過ぎて、無我夢中の新入り振りでしたが、運営資金の見直しが行われ、四十六年度より従来の終身会費制を改め、入会金と年度会費制に変わりましたが、これは終身会費だけでは窮屈な状況もさることながら多くの先輩が、若い後輩の会費に依存することを潔しとしない先輩諸氏の心意気と感じ入りました。そして刮目すべきは会報の発行です。全会員の手元に之を届けるという画期的な事業だと思います。広陵はいかに多くの同窓生の心を満たしてくれていることでしょうか。

さらに創立五十周年事業の醵金に際し支部結成或は強化の機運が高まり、とり分け秦野・伊勢原については、会報の配布を始め会費の集金まで支部で扱うなど活動が目立っています。

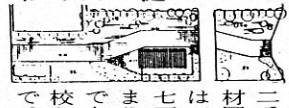
さて、常々痛感しておりましたことは、役員の方々のことです。暑さ寒さ、雨の日風の日、遠く交通機関を乗りついで会合に出席される方々など。会を支える唯ひたすらのご尽力に頭が下ります。

最後に、同窓生各位を始め、本会と母校の限りない発展を心からお祈りいたします。

# 創立60周年記念事業実行委員会
## ——活動と経過報告——

## 教材園委員会

杉山　健（中7回）



記念事業費二千万中教材園の予算は三五%、七百万。つまりメインである。学校と委員会で、この二月に平塚農業高校他三校の庭園を見学した。その結果平農の造園教師の小塚氏に設計を依頼する事にした。中央を東西に巾三米の踏石の通路が七〇米走る。南側にこの庭の柱である枯山水を作庭し、バックに椎木。楠。チャボ檜葉等をうえる。又北側の一部に憩場として約十六坪のバーゴラを作る。小意気な日本庭園と云った所か。業者は市の仕事もやっている秦野植木センターを委員会で選定した。やがて競走社会にとび立つであろう後輩の情操教育の一助に先輩格の大歌人夕暮の歌碑もこの際たてようと学校当局と委員会側で意見の一致をみた。歌文は母校にふさわしい「まなかいに朝の富士あり天雲を貫きて赤くそびえたるかも」を選んだ。高さ一四〇糎、巾二五〇糎の富士山型の根府川石にほりこみ、正門入口の左手にたてることにした。周囲には芝をはり、又山桜を配した。字は母校に十六年も奉職され夕暮の著名な研究家であり、親交もあった杉山長風先生にお願いした。

百聞は一見にしかず、総会には多数の同窓諸氏のご出席を期待します。

工事中の庭園

## 名簿委員会

村松晃男（中6回）

六十周年記念名簿委員会は女性一名と校内幹事二名の先生にて結成しました。

昭和五十九年十月二十三日に出版会社と契約をとり交わすまで幾度かの会合を重ね半信半疑のまま、話をすすめて来ましたのも皆さんの協力、特に校内幹事の諸先生方の絶大なる努力に感謝して居ります。

現在1、名簿予約者　二、六八八名
2、内入金者　二、四八八名
3、広告予約者　一一七件
4、内入金者　九六件
金二百六一万九千二百円也
5、住所不明者
四〇〇名　九七%
7、準卒者　八八名

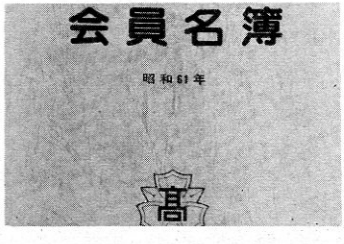
（注）広告料百五十万円以上の場合は六〇%を学校へ返金する事と契約時の約束ですので相当の金額が返って来ます。

募金の心配はここでもかんわされます。

全部が入金の場合は、八四万円が返金される予定です。

又、住所不明者も千数百名もありましたが、校内幹事古部先生飯田先生の努力の結果と手も出さずにいた委員としてお赦しを乞うのです。どうぞ会員各位におかれましては会員名簿の活用と親ぼくを計るとともに、いつまでも秦高の名のもとに団結いたしましょう。

簡単ですが経過報告といたします。



## 資料収集委員会

湯沢昇平（中3回）

前回の広報で主題のことについてお願いをし同じ頃何かを持って居ると見込んだ方あて短緒でお願いをしたところ、思師や先輩から奈珂中初期の教科書、写真類、NK中のユニホーム等四〇数点の寄贈をいただきました。学校誌「奈珂」の寄贈もあります。この雑誌は八号で廃刊となってしまったようで四号だけが揃いません。どなたかお持ちでしたら提供して下さい。この雑誌はかなり内容のある興味だけでなく知識ともなるもので、又、資料のいずれも我々を形成してくれた材料であり懐かしいものです。学校アルバムのこと、頼みの無木写真館が廃業の由で一切の写真、ネガ等を梶山写真館で引継いで最新の方式で整理管理し何日でもどれでも直ちに抽出プリントできるようになっています。

更に学校側の小史編纂委と協同で、五月に昔の本校の関係者、先輩に学校の歴史についてアンケートを発し数人の方から戦争中の日記をいただいたりして学校史の有難い材料となりました。

来校の折是非参観して下さい。紙面なく資料提供者のご尊名内容照会は割愛しました。

不悪

## 式典委員会

原田正志（高2回）

式典委員会の活動は他の委員会に先がけて昭和五九年九月、校内諸先生の献身的な御尽力と醸金活動に併せて配布する記念品の選定から始まりました。

以後、今春までは開店休業の状態でしたが、他の担当委員会の活動の進捗にあわせ大詰めの記念式典の計画準備のため六月より数回の会合を重ね今日に至っています。

拭を二百万円で作る事が出来ましたが、図案題字等を担当下さった注面で陶山正先輩のお力に負う処大きく、深く感謝申し上げます。

学校主催の六十周年記念の式典は、十月二五日午前十時から母校体育館で式典、記念講演、祝宴等が挙行されますが、同窓会ではそれに先立ち十月十八日除幕式を行います。当日は午前十時から法伝寺での育英碑の除幕に始まり、午後一時から母校で開校碑、教材園、歌碑の除幕式を行う予定です。

十月二六日、同窓会六十周年記念総会を母校視聴覚教室で午後一時半より行い、その中で六十周年記念事業の経過報告もなされます。引続き第二部で講演、公演が予定され第三部祝賀会を会議室で行いフィナーレになる運びです。

式典委員会と申しましても、総勢十二名しか居りませんし、当日業務等も何かと不備な点が多々目立つ事でしょうが、皆様方の御協力で無事任務を全うしたいと念願しております。終りに会員の皆様方には是非十月二六日、母校へ御参集いただき記念事業の成果をつぶさに御覧下さいます様お待ち申上げます。

## 委員会

（中12回）

会計委員の仕事は一口に申し上げれば募金活動の結果拠金された浄財の管理及び記念事業のための支出項目の適否判断と支出並びにこれらの記録と集計を行い、その結果を会員諸兄にご報告申し上げることかと存じます。いづれも記念事業の事務局業務として常時発生するものであり、一般外部会計委員としては実施が困難であります。従ってその殆んどすべてについて校内委員の青木先生並びに小泉先生を煩わすこととなりました。

しかし、記念事業予算合計二千万円に対し六月末における拠金額は一、七〇〇万円程度であり、このままでは別途特別の措置を講じない限り事業の遂行が困難と思われ

## 会計

唐津祥也

ましたので、会計委員としても何等かの方法で協力したいと考え七月六日第一回会計委員会を開催いたしました。

席上、拠金実績を分析し地区別に募金目標額に対する実績をとらえ特に大きな未達となっている地区について対策を講ずるようお願いいただければ、二千万円の目標完達は困難としても、事業遂行に支障のない金額は達成可能と思われます。募金活動は十月二十六日の総会当日まで継続されますので、会員諸兄のご協力を切にお願い申し上げます。

拠金の実績並びに費用の支出実績については、六二年度の広陵並びに定例総会で最終決算報告をさせていただく予定でおります。

## 育英碑委員会

足立行雄（中5回）

秦高創立六十周年記念事業の一環として母校縁りの地である金目坪之内宗信寺（三郡共立学校として発祥の地）及び堀之内法伝寺（中郡立農業高等学校並びに私立育英学校の跡地西側）の二個所に、平塚農業高校同窓会と連繋して記念碑を建立することとなり、宗信寺は平農で、法伝寺側は秦高が分担することになりました。

法伝寺東側の学校跡地は現在では住宅等が建ち並んでおり、記念碑用地の確保が極めて困難な状況でしたので、法伝寺住職内山一明氏（秦高第八回卒）に御相談致しましたる処、山門前の一画を心よく提供して下さいました。私共委員会が一番懸念しておりました用地問題が容易に解決できましたことは偏に、内山氏の母校愛によるものと感謝に耐えません。

次に記念碑については、伊勢原市日向の秋山道造石材店に手頃な根府川石（高さ四尺五寸、巾二尺）がありましたので、沿革誌碑用の黒みかげ石と併せて製作を依頼いたしました。

又記念碑への揮毫は、会報広陵の題字でお馴染みの宮本信義先生（中五卒）にお願い致しました。

寺はバス停金目駅の傍ですのでお立寄りの上、母校百年の星霜を偲んで頂きたいと存じます。

最後に関係各位のご尽力に対し深く感謝の意を表します。

尚除幕は十月十八日の予定です。

## 開校碑委員会

宮本信澄（中4回）

広畑ヶ丘に秦野高等学校が開設されて今年で六十周年、その淵源を尋ねれば、実に百年の星霜を閲するを想う時、生徒を始め訪ずれる人々に学校の歴史をと、六十周年記念事業の一環として開校碑を建設することになり、委員長以下十一名で開校碑委員会が結成されました。その経過を報告します。

第一回委員会（六十年八月三日）

碑文、石材店、建設位置等の構想討議

第二回委員会（同年九月十四日）

碑文は会長、委員長、学校長にて文案を考える、石材は神奈川県産のものを選ぶこと。

第三回委員会（同年十二月一日）

厚木市内に建設されている碑の見学。石材店を選定。

第四回委員会（翌年一月十四日）

根府川、真鶴の石切場見学検討

第五回委員会（同年一月三十日）

碑文案の検討、石材を真鶴の本小松石に選定、同年二月二十四日碑石発注（二二〇㌢×二〇〇）

第六回委員会（同年三月二十五日）

碑文案再度検討、及び位置検討

第七回委員会（六月二十六日）

碑文、位置の最終決定

以上経過報告であります。校長、教頭、栗原先生には毎回の委員会に御出席を賜り、御援助を戴きました。特に碑文については校長先生を主軸に先生方の叡智を傾倒され、推敲に推敲を重ねて出来たことを厚くお礼申し上げます。

## 物故者

### 客員

松木　幹男（60・8）
桐生　良司（60・9）（中三回）
小林　剛（61・3）
浅井　誠一（61・7）

### 会員

中四　坪井　光次（60・6）
高四　岡田　勲（60・10）
高七　佐藤　進（60・10）
中一九　篠原　民夫（60・12）
高一〇　小泉　健彦（60・12）
中一一　横溝　早苗（61・1）
高一〇　内藤　清士（61・1）
高三二　杉本　兼明（61・1）
高三七　井上　和博（61・4）

謹んでお悔み申し上げます。

㈱事務局に寄せられた分です。（小泉記）

## —座談会— 歴代同窓会長
# 同窓会の思い出を語る

出席者　湯沢昇平（第7代会長）
　　加藤頼章（第8代会長）
　　能條斐雄（第9代会長）
司　会　杉山　健（中7回）
記　録　石原春男（高16回）

**司会**　本日はお暑いところお集まり頂き有難うございます。実は今日は歴代同窓会長に同窓会の思い出を語って頂きたくお集まりを願ったわけでございます。

　これまでの同窓会長は昭和二十一年まで歴代校長が同窓会長を務めておられました。卒業生が会長となりましたのは大橋正勝（中1回）が初代で、次いで尾上一二（中1回）が就任しました。お二人はすでに亡くなられましたので、今日はその後を引き継がれましたみなさん方にお集まりを願った次第です。会長をおやりになっていろいろ御苦労があったかと思いますが、そのようなことをお話し頂ければ幸いです。

**湯沢**　学校ができて卒業生が出れば同窓会はできるものですが、初期の頃は有志による会が開かれていたと思います。卒業生が三十代位になって、昭和二十五、六年頃形ができてきたと思います。四十周年の時、体育館の緞帳を作ることになり広く同窓生に呼びかけた覚えがあります。この頃から各支部もでき、五十周年直前にはかなり形ができたと思います。

**司会**　同窓生はどの位でしたか。

**湯沢**　三千人位だったと思います。

**加藤**　当時は熱意はあっても本当に組織化されていなかったので十分な活動ができませんでした。私が引き継いだ時は五十周年をやらなければならなかったので、そのためにまず組織の強化を手がけました。次に正確な名簿作りに取り組みました。これによって特定の人だけでなく、広く卒業生に募金を呼びかけることができるようになった。特に私は秦野市の会員組織に力を入れました。

**司会**　「広陵」によりますと昭和四十六年度から会費制度となったようですね。

**加藤**　最初は会費納入者はごくわずかだったようです。

**司会**　五十周年の時は加藤さんが先頭に立って高橋徳治さん宅で、ずい分会合を開いたそうですが。

**加藤**　唐津、宮本、原君らも加わり、夜一時頃まで相談しました。八〇〇万円の募金活動でしたからね。討議は三ヵ月位かかりました。

**湯沢**　卒業時の入会金が唯一のまとまった収入源でして、ほとんど資金がなかった。この問題を五十周年の時解決しようとしたのです。会報の発行、会費の徴収などで。

**能條**　会報発行、会費徴収、支部結成による組織化等によって、卒業生の入会金に頼らずある程度の仕事が組めるようになったと思います。野球部が昭和四十七年に決勝戦に進出した時、実は非常に心配した。もし勝ったら、同窓会としては金がない。茅ヶ崎の関野さんなどずい分考えてくれました。各方面へ呼びかけ資金集めをした。この時の残余金を現在同窓会館建設資金として積み立てています。

　同窓会費は現在ブラスバンド、県、関東、全国各大会の選手派遣助成金として、また校内マラソンの湯のみ、部対抗駅伝のタオル、五十周年記念庭園の維持管理等にも使わせて頂いております。私は今六十周年事業を手がけているのですが、目標二千万にまだ三〇〇万足りません。各地区の募金責任者を置かなかったのがいけなかったかと反省しております。

**湯沢**　五十周年のときは資金がないから盛り上げようということで呼びかけたら八十人位母校に集まりました。夜九時頃まで激論しました。

**加藤**　あの時は多くの家を何回となくお伺いしました。次第に盛り上り目標額を超えました。

**司会**　同窓会がスムーズに動くのも校内幹事さんが裏方となって働いて下さるからだと思いますが。

**能條**　おっしゃる通りです。学校長はじめ校内幹事の方に自発的に

左より能條、湯沢、加藤 司会 杉山

ご協力を頂き有難いことです。

**司会**　最後にひと言お願いします。

**能條**　私は六〇周年をやるにつけ、大正末期、宮田寅治、森純一、猪俣松五郎さんなどが中心になって金目村外二十六ヶ町村に呼びかけて奈珂中学を創ったことは実に偉大な仕事だったとつくづく感じます。奈珂中の奈は神奈川の奈、珂は白めのうのような磨けば光る宝石で、県央のまだ磨かざる学生を集めこれに磨きをかけ、社会に役立つ青年を育成するというのが建学の精神なのです。

**湯沢**　秦高同窓会の特異な点は、会報「広陵」を継続発行していること、同窓会館のための積み立てをしていること、学校林を持っていることだと思います。学校林は市場価値は別として、生徒が汗を流して造林した山林を今なお持ち続けていることは自慢していいのではないかと思います。

**司会**　本日はどうも有難うございました。

## 思い出を語る

## 思い出すことなど

**中村　省司**（高15回）

わが青春に悔いなし——という映画の題名ではないが、秦高での学園生活は、私にとって、本当に悔いのない日々であった。

山紫水明の地・秦野に居住したのは、父の勤務の関係で、中三から高二の三年間であった。丹沢連峰を望み、自然とそこに住む人々の人情の大いなる懐に抱かれるごとく、多感な時期を過すことが出来たことは、今も私の掛け替えのない財産となっている。

初恋のほろにがい想いもしたし、ケンカもした。竹刀のアザを誇らしげに稽古に励げんだ部活動。友にも恵まれ、あいつに負けてなるものかと、勉学もそんなに苦にならなかったと思う。

校長は鈴木昻先生、教頭は飯田一郎先生ことイッチャン。担任は、一年が大館茂先生、二年川口祥有先生、三年は北郷康先生であり、師にも大変恵まれた。後年、川口先生や北郷先生にお目に掛かることがあったが、両先生とも涙を浮べて、いたづら坊主の成育を喜んで下さった。

様々な思い出は尽きないが、在学中の一大事件といえば、少々大げさだが〝長髪騒動〟だと思う。当時、坊主刈りが校則であり、質実剛健の気風が、木造の旧校舎には満ちていた。鉄筋新校舎への移転は二年生になってからで、こうした近代化への新しい波は、生徒間にもある種の文化革命気どりの主張と行動を起す誘因になっていた。

授業をサボタージュして、雨天体操場に座り込みを敢行。生徒指導の白井・岸両先生を困らせたことも、今なお鮮明に脳裡に焼きついている。幸い、鈴木昻校長が不在であったため、生徒総会の時間延長ということで、生徒会役員であった私は、事なきを得た。

在校生の皆さん！　今日、長髪が認められているのは、そうした歴史がもたらしているが、あくまでも、秦高健児の質実剛健、校歌に謳われる〝祖国になはむ我等が誓ひ〟は、継承していってほしいと願わずにはいられない。（県会議員）

## 秦高と私

**飯尾美甫**（高8回）

身内に秦高にゆかりのある者が多く、しかも男女隔てなく大学教育の必要性を説いた両親の影響であまり抵抗もなく入学した私。

にもかかわらず、発表当日どうしても女性名が七人しか見当らず、果して盖無く三年間を過ごせるかと一沫の不安をもってしまった。

結局、十名の女子が入学したわけであるが、何といっても共学胎動期の苦渋と、過保護のきらいのある恩恵とを併有した高校生活であったと思う。

受験では先駆者としての弱点を露呈してしまったが、学校生活・行事のいずれの場合にも特別に遇されたからである。

こうむ感じた上級生、活発に討議をした中央委員会、放課後遅くまで熱中した卓球、汗まみれになって作業した下刈りと思い出は数えきれない。

そして迎えた卒業式。一・二年のクラス担任だった山岸先生の東大病院からの祝電に、自分の卒業には涙もなかった私の頬に熱いものが流れ落ちていった。

校長先生を初め、大勢の先生方に熱心に指導して頂き、倖せな高校生活を過ごすことが出来て感謝の念は止まない。その先生方の叱咤激励にも拘らず、自分に体現できなかった不甲斐なさを悔やむことも時にはある。

しかし、卒業して三十年、自分が学んだ学校を皆さんに負けず愛し、誇り、発展を願っている私である。

# 草創期の想い出

古屋一男（中5回）

当時、私は中郡大根村立大根尋常高等小学校の五年生になったところでした。

その四月。ある日突然に、凄く大柄な、いかにも堂々とした制服制帽姿の『お兄ちゃん』達が、降って湧いたようにその姿を表し、私達の校舎の一部と校庭全体を、わがもの顔に占領してしまったのです。この学校の主は自分達だとばかり信じ込んでいた私達小学生は、まさに、そんん深刻な受け留め方をしながら、ただ呆然と、彼等の派手なそして見事な行動に圧倒されておりました。私共の幼い眼には、彼等の動きは、全く、暴君そのものの姿としか映し出されませんでした。

当時の色褪せた想い出を一・二捜してみましょう。

五年生となったばかりの四月のある素晴らしい快晴の朝のこと。

登校してみると、講堂の入り口の外壁に新一年生の合格者発表が出ていました。長い巻紙に墨くろぐろと、一人一人の姓名が丁寧に書かれて掲示されておりました。

私は、すぐに同級の親友・湯沢君の兄さんの名前をその発表の中に見付けました。

六十年後の今日まで、妙にはっきりと頭に残っておるのですが、その年の校庭の桜は、その時すでに、満開時を少々過ぎておったようです。合格者発表の長い巻紙の一端が壁から少し剝がれていて、その端が花吹雪の中で、せわしなくはためいていたのです。

その二……『奈珂中が建ったんだ。行ってみようじゃないか』クラスの悪童連の声で、かなりの同級生が連れ立って見に行ったことも、幼い想い出の一つです。

真夏のことでした。矢倉沢往還を十五分ほど歩いて現場に着きました。見ると、夏草に半ば埋まった形で、旧中館が「ポツン」とたった一棟、広々とした農地のど真中に建っていたのです。

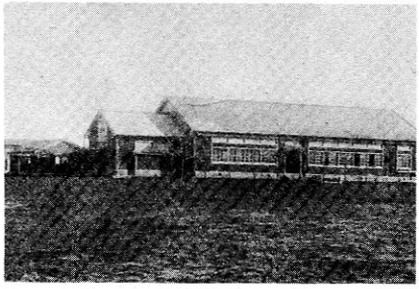
人為の造作の何一つない広漠とした畑地の真中に建てられていた未完成な平屋校舎は、私の眼に、鮮烈な違和感を灼き付けました。

そして、その秋。私達の学び舎は、また元の平静に戻りました。ある日、突然に『お兄ちゃん』達は完成した新校舎へ引っ越して行ったのです。

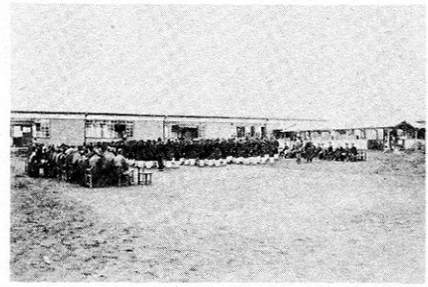
## 第四十一回 校内一万米競走大会 に参加を！

六十周年を記念しなつかしい校内マラソン大会に卒業生諸氏の参加をお願いいたします。十月二十六日午前十時三十分集合、十一時三十分スタート。距離は一万メートル、と四千五百メートル（女子コース）いずれでも結構です。ただし健康であり普段ある程度の練習を積んだ方を希望いたします。

# ＝60年＝ 思い出の一こま



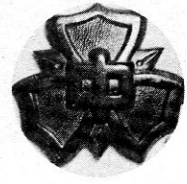
昭和初期の校舎
プラタナスはまだ小さい



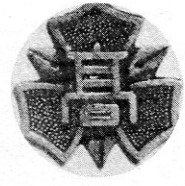
奈珂中開校式（大正15年）

## 校　章

奈珂中

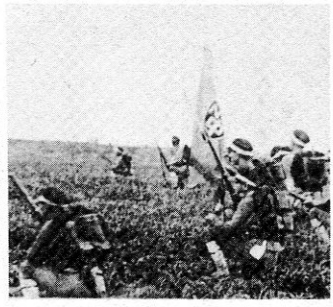



秦中

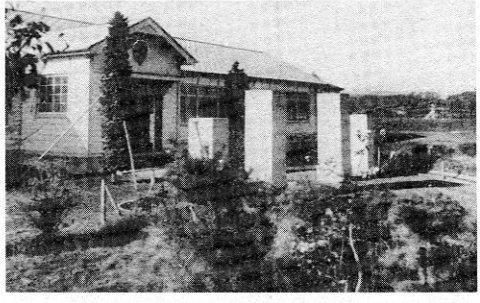



秦高

競技部優勝
Nマークがあざやか

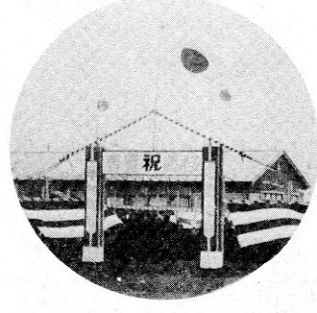


野外演習



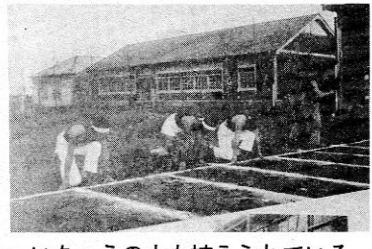
奈珂中正門（昭和5年頃）

マント姿で登校




県立移管祝賀会
（昭和10年）

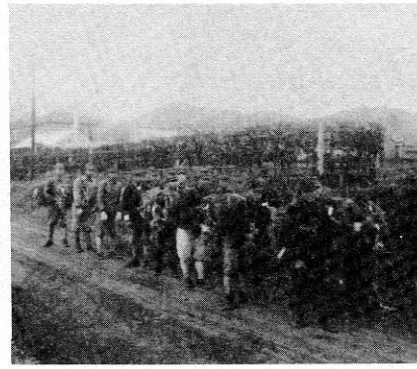
勤労奉仕
（昭和15年）



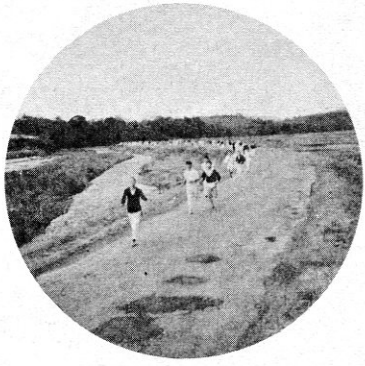
陸上部練習風景
左に講堂（昭和14年）

いちょうの木も植えられている

造林作業
（昭和16年）

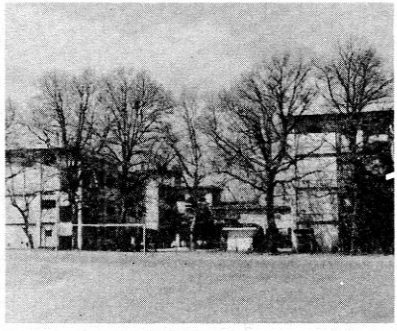


戦争末期　秦野市民のために
丹沢から炭を運んだ



昭和32年の校内１万米大会
秦野平塚線欠の上バス停付近

昭和33年頃の清掃風景
下駄ばき姿に注目



現　在　の　校　舎

昭和38年頃 新校舎が完成
まだ体育館はできていない

# 60年度 卒業生大学合格状況

| 大学名 | 61年 現 | 61年 浪 |
|---|---|---|
| **国公立大学（4年）** | | |
| 東京 | | 1 |
| 東京学芸 | 1 | 1 |
| 東京農工 | 2 | 1 |
| 東京工業 | | 1 |
| 東京商船 | 1 | |
| 東京水産 | 1 | |
| 東京都立 | 1 | 1 |
| 都立科学技術 | 1 | 2 |
| 横浜国立 | 2 | 4 |
| 横浜市立 | 1 | 1 |
| 旭川医科 | | 1 |
| 帯広畜産 | | 1 |
| 筑波 | | 2 |
| 群馬 | | 1 |
| 埼玉 | 2 | |
| 千葉 | | 2 |
| 金沢 | 1 | |
| 大阪外国語 | | 1 |
| 山口 | | 1 |
| 海上保安 | 1 | |
| 職業訓練 | 1 | |
| 防衛 | 2 | |
| **私立大学（4年）** | | |
| 青山学院 | 18 | 16 |
| 亜細亜 | 3 | |
| 桜美林 | 4 | 1 |
| 学習院 | 1 | 5 |
| 北里 | 3 | 1 |
| 共立女子 | 2 | 2 |
| 慶応義塾 | 1 | 3 |
| 工学院 | 2 | 4 |
| 国学院 | 4 | 7 |
| 国士館 | 2 | |
| 駒沢 | 10 | 8 |
| 実践女子 | 9 | |
| 芝浦工業 | 2 | |
| 上智 | 3 | 1 |
| 昭和 | 1 | |
| 昭和女子 | 2 | |
| 昭和薬科 | 1 | |
| 成蹊 | 3 | 5 |
| 成城 | 1 | 7 |
| 清泉女子 | 1 | |
| 専修 | 19 | 11 |
| 創価 | 1 | |
| 大正 | 2 | 1 |
| 大東文化 | 1 | |
| 高千穂商科 | 2 | |
| 拓殖 | 2 | 1 |
| 玉川 | 3 | 1 |
| 多摩美術 | 1 | |
| 中央 | 15 | 15 |
| 帝京 | 3 | 2 |
| 東海 | 26 | 15 |
| 東京家政 | 3 | |
| 東京経済 | | 2 |
| 東京女子 | 1 | 1 |
| 東京電気 | 5 | 8 |
| 東京農業 | 5 | |
| 東京薬科 | 1 | |
| 東京理科 | 4 | 4 |
| 東洋 | 5 | 6 |
| 二松学舎 | 2 | |
| 日本 | 45 | 31 |
| 日本社会事業 | 1 | 1 |
| 日本獣医畜産 | | 2 |
| 日本女子 | 4 | |
| 日本体育 | | 1 |
| 文化女子 | 2 | |
| 法政 | 16 | 18 |
| 星薬科 | | 1 |
| 武蔵 | 1 | 4 |
| 武蔵工業 | 2 | 6 |
| 武蔵野音楽 | 1 | |
| 明治 | 33 | 31 |
| 明治学院 | 3 | 3 |
| 明星 | 2 | 3 |
| 立教 | 6 | 8 |
| 立正 | 2 | 1 |
| 和光 | | 1 |
| 早稲田 | 13 | 12 |
| 東京工科 | 2 | |
| 麻布 | 1 | 2 |
| 幾徳工業 | 4 | 3 |
| 神奈川 | 32 | 27 |
| 関東学院 | 5 | 10 |
| 京浜女子 | 2 | |
| 相模工業 | 2 | 1 |
| 相模女子 | 1 | |
| 産業能率 | 6 | 1 |
| 鶴見 | 2 | |
| 東京工芸 | 4 | |
| 横浜商科 | 3 | |
| 国際商科 | 1 | |
| 城西 | 1 | |
| 文教 | | 1 |
| 東海女子 | | 1 |
| 愛知学院 | 1 | |
| 南山 | | 1 |
| 福山 | 1 | |
| **短期大学** | | |
| 電気通信大 | 1 | |
| 神奈川県立衛生 | 1 | |
| 神奈川県立栄養 | 3 | |
| 群馬大医療技術 | 1 | |
| 青山学院女子 | 5 | |
| 桜美林 | 3 | |
| 大妻女子大 | 5 | 1 |
| 学習院女子 | 3 | |
| 恵泉女学院 | 1 | |
| 共立女子 | 2 | |
| 国士館 | 3 | |
| 駒沢 | 4 | |
| 産業能率 | 8 | |
| 実践女子 | 2 | 1 |
| 淑徳 | 2 | |
| 昭和女子大 | 6 | |
| 女子栄養 | 1 | |
| 女子美術 | | 1 |
| 白梅学園 | 3 | |
| 杉野女子大 | 1 | |
| 成城 | 2 | 1 |
| 田中千代学園 | 1 | |
| 玉川学園女子 | 3 | |
| 帝京女子 | 1 | |
| 東京家政学院 | 2 | |
| 東海大 | 2 | |
| 東京家政大 | 2 | |
| 東京工芸大 | 2 | |
| 東京女学館 | 1 | |
| 東京女子体育 | 3 | |
| 東京成徳 | 1 | |
| 東京女子大 | 2 | |
| 東京農業大 | 1 | |
| 東洋英和女学院 | 1 | 1 |
| 東洋女子 | 1 | |
| 東横学園女子 | 6 | |
| 文化女子大 | 1 | |
| 日本大 | 1 | |
| 富士 | 2 | |
| 文京女子 | 1 | |
| 文教大女子 | 3 | 1 |
| 武蔵野女子大 | 2 | 2 |
| 武蔵野美術 | 1 | |
| 山脇学園 | 2 | |
| 立教女学院 | 2 | |
| 日本経済 | 2 | |
| 和泉 | 1 | |
| 小田原女子 | 2 | |
| 神奈川大 | 6 | |
| カリタス女子 | 1 | |
| 関東学院女子 | 9 | |
| 京浜女子大 | 3 | |
| 相模女子大 | 7 | |
| 上智 | 6 | |
| 湘北 | | 1 |
| 鶴見大女子 | 12 | |
| 東京工芸大 | 6 | |
| フェリス女子 | 2 | |
| 横浜女子 | 1 | |
| 松陰女子 | 1 | |

| | 61年 現 | 61年 浪 |
|---|---|---|
| 国公立大学 | 17 | 21 |
| 私立大学 | 364 | 297 |
| 短期大学 | 160 | 9 |
| 合計 | 541 | 327 |
| 総計 | 868 | |

## 専門学校進学状況

| 系統別 | 男 | 女 |
|---|---|---|
| 工業 | 4 | 1 |
| 医療看護 | 2 | 6 |
| 衛生 | 1 | 3 |
| 服装家政 | | 1 |
| 文化教養 | | 3 |
| 商業実務 | 2 | 8 |
| 農業 | 1 | |
| 合計 | 10 | 22 |

# 母校から＝進学カルテ
# 明治大64名合格など躍進

進路指導部
中村　鶴生

六一年春の卒業生は、ひのえ午の翌年に生れた人口急増の一期生で、大学入試は全国的激戦が予想されましたが、安全志向もはたらくなど例年になく多様化の様相を呈しました。

本校は学区再編三年目で、地域の期待もますます大きく、高校卒業生急増の危機感がバネとなって、現浪共よくがんばり、目覚しい進出を果たしました。浪人は、二年連続の東大合格をはじめ、特に国公立大での健闘が目立ちました。

現役は、卒業生全体に対する割合が、大学進学者四四%（昨年三四%）、短大一六%（同一六%）、浪人三〇%（同四二%）で、文系を中心に躍進を遂げました。私立大は、合格者延数が大幅に伸び、特に人気の高い、早稲田、明治、青学、法政、中央などで大健闘、なかでも明治は三三名、浪人三一名と合せて、六四名の大量合格で特筆に値します。国公立大も伸びましたが、私立大との併願では相変らず苦戦を強いられました。短大も一般入試で大きく伸びましたが、推薦入試の方は合格率がやや下り、急増期入試の厳しさを味わいました。

専門学校進学者と就職者は昨年並みの数で、合せて全体の一〇%です。就職を取り巻く環境も年々厳しさを増しています。

以上、進路状況は全体的にたいへん好結果となりましたが、在学中、部活動や学校行事等に積極的に取組み充実した高校生活を送った者の善戦が目立ち、質実剛健の伝統の重みが感じられ、頼もしい限りです。進学・就職先での活躍を祈ると共に、浪人生の来春の成果を期待したいと思います。

## 60年度卒業生進路状況

| | | 卒業生 | 大学 | 短大 | 浪人 | 専門 | 就職 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文系 | 男 | 121 | 66 | 0 | 47 | 4 | 4 |
| | 女 | 161 | 56 | 68 | 10 | 21 | 6 |
| 理系 | 男 | 153 | 70 | 1 | 75 | 6 | 1 |
| | 女 | 25 | 11 | 4 | 8 | 1 | 1 |
| 合計 | 男 | 274 | 136 | 1 | 122 | 10 | 5 |
| | 女 | 186 | 67 | 72 | 18 | 22 | 7 |
| 計 | | 460 | 203 | 73 | 140 | 32 | 12 |

## 元校長 浅井誠一先生御逝去

去る七月三日、第五代校長浅井誠一先生の訃報に接した。満九十歳の御高齢であった。先生は県立中学校時代（昭和十五年四月）に県立小田原高等女学校より着任され、戦中戦後の大変動期を過ごされ昭和二十一年十月に御転勤、県立湘南高校長を経て、県教育委員会で本県職員をおえられた。その後星美学園短期大学で児童心理学などを御教授、同大学の名誉教授として生涯を閉じられた。

## 送金の方法

振替送金の場合は、同封の振替用紙に所要事項御記入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別に振替手数料三十円を要します。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。

## ＊お知らせ＊

本同窓会では、亡くなられた方に気持だけの香典をさしあげています。知り合いの同窓でおわかりの節は、事務局（秦野高校）までお知らせ下さい。

## 原稿お寄せ下さい

とにかくニュースをお届け下さい。（三六〇字以内）

送付先　秦野市下大槻一一三
県立秦野高等学校内
同窓会事務局　石井郷二宛

## 編集後記

暑い夏休み、六十周年記念庭園の工事の槌音にせきたてられるように汗をふきふき編集作業にとり組む。工夫をこらしたつもりだったが終えてみるとまたも力不足を感じます。ご容赦いただきたい。

〒257
秦野市下大槻一一三番地
県立秦野高等学校内
**秦野高校同窓会**
**会報委員会**
電話秦野(〇四六三)(77)一四一二～三
振替口座　東京二―二二六八九
発行責任者　**杉山　健**（中7回）
編集責任者　**石井郷二**（高7回）　**石原春男**（高16回）
**高橋智之**（高33回）